



個人投資家向け会社説明会

2025年1月25日

 三菱ガス化学株式会社

CSR・IR部 IRグループ

東証プライム

4182

1		三菱ガス化学の概要	03
2		三菱ガス化学の事業	14
3		中期経営計画	24
4		株主還元	36



MGC

1. 三菱ガス化学の概要

会社概要

社名 三菱ガス化学株式会社（登記社名:三菱瓦斯化学株式会社）

所在地 〒100-8324 東京都千代田区丸の内2-5-2 三菱ビル

創業 1918年(大正7年)1月15日

設立 1951年(昭和26年)4月21日

資本金 419.7億円(2024年3月末現在)

決算期 3月

従業員数 連結:7,918名、単体:2,486名(2024年3月末現在)

グループ会社数 115社(2024年3月末現在)

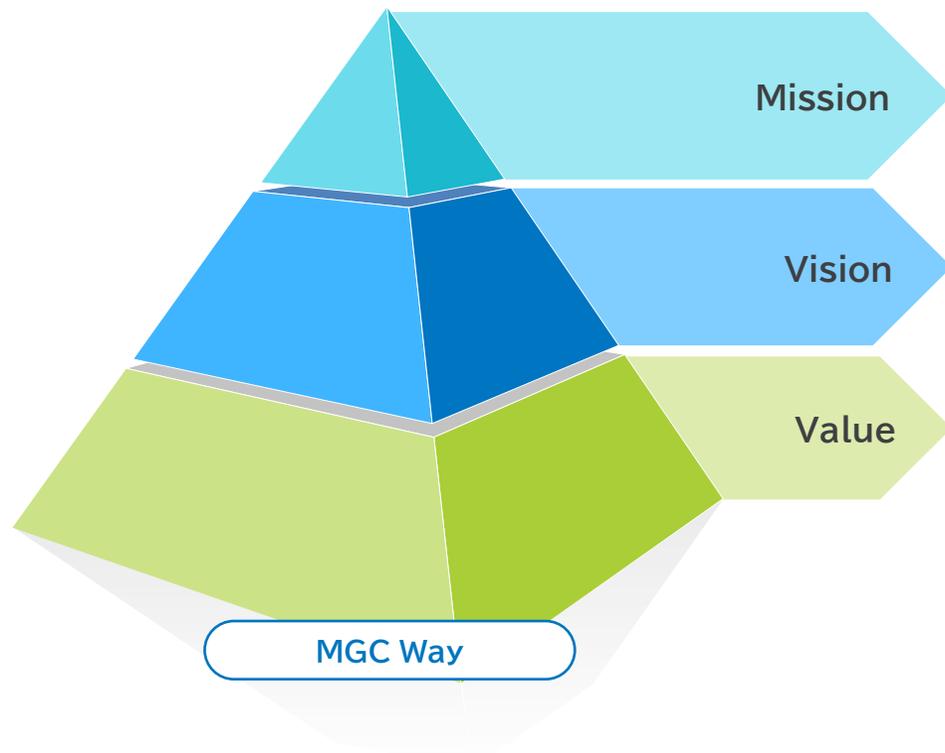
連結売上高 8,134億円(2023年度)



Uniqueness & Presence事業の拡大により
企業価値向上に注力するとともに、
資本効率をより一層重視した経営を実践していきます

代表取締役社長 藤井 政志

- MGCグループは、理念体系「MGC Way」のもと、経済的価値と社会的価値の両立に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



Mission 社会と分かち合える価値の創造

Vision 化学にもとづく、特色と存在感あるエクセレントカンパニー

行動理念

1. 変化を恐れぬ勇氣、
2. 高い目標への挑戦、
3. 目標達成への執念、
4. 共感を広げるコミュニケーション

MGC企業行動指針

サステナビリティ推進指針

世界のグループ会社

115社



連結海外売上高比率

約62%



研究開発費

約256億円(連結)



連結従業員数

7,918名



自社開発技術による製品

90%以上(生産品目ベース)



世界市場トップシェア製品数の比率

約40%



連結売上高

約8,134億円



連結営業利益

約473億円



株主還元

15期連続 累進配当

ROE

6.1%(連結)



ROIC

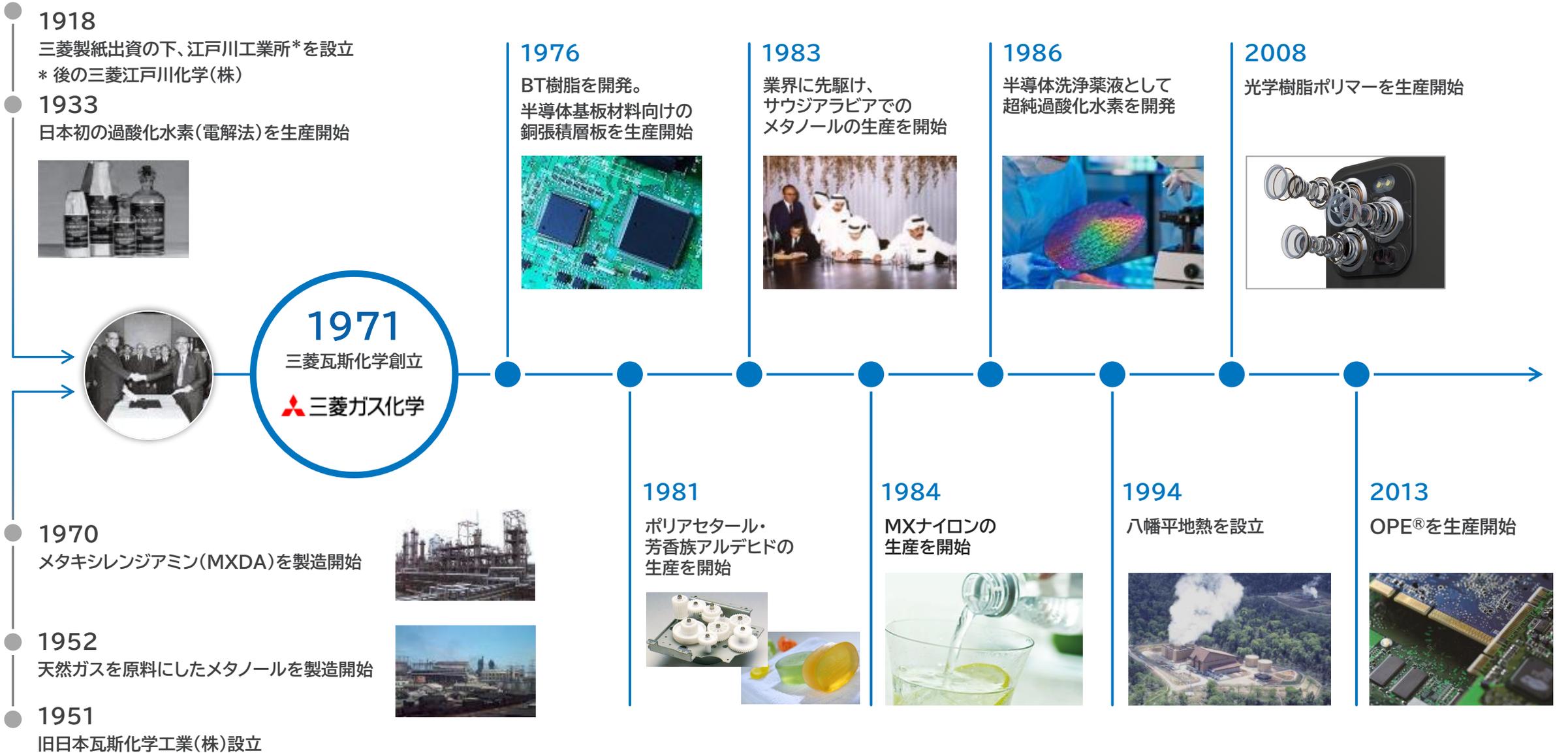
3.3%(連結)



総還元性向(現中計期間の方針)

50%





1 独自技術を生かし、幅広い分野でトップシェアを獲得

成長著しい半導体市場やスマートフォン市場で活躍するICT 3事業を中心に、幅広い分野でグローバルトップシェアを獲得



2 技術志向のDNA

製品の90%を自社開発技術で製造(生産品目ベース)

技術立社の源となる研究員やエンジニアなど技術系社員が多数在籍



3 カーボンニュートラルの実現に貢献する技術・製品

長年培ってきた天然ガス開発やメタノール製造の経験を生かし「カーボンニュートラル技術」の事業化を推進

CO₂を原料としたメタノール製造や、CO₂回収・貯留・利用の研究開発などに注力

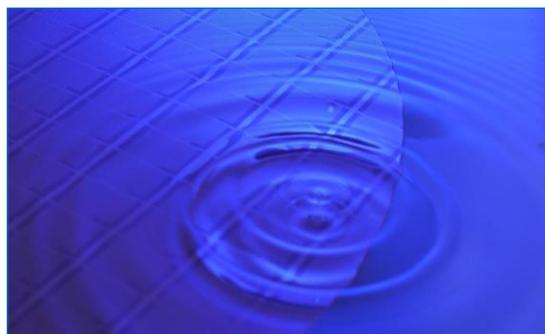


– 独自技術を生かして、様々な市場で世界トップクラスのシェアを獲得



BT材料(半導体パッケージ基板材料)

世界シェア 1位



超純過酸化水素(半導体洗浄液)

世界シェア 1位



光学樹脂ポリマー

世界シェア 1位*1



ポリアセタール(POM)

世界シェア 3位



メタノール

生産能力 世界3位*2



メタキシレンジアミン(MXDA)

世界シェア 1位



MXナイロン

世界シェア 1位



芳香族アルデヒド

世界シェア 1位

*1 高屈折樹脂(凹レンズ)として

*2 当社技術を用いた関係会社の総計(2023年度)

ー 当社ならではの特色ある技術を活用し、カーボンニュートラルに貢献する製品・技術の開発を推進

カーボンニュートラルに貢献する製品、技術の開発



CO₂原料のメタノール製造技術



メタノール原料の水素製造技術(触媒)



地熱発電

※湯沢地熱株式会社提供



CO₂利用
ポリカーボネート



クリーン
アンモニアの調達
(燃料、グリーン水素原料)



全固体電池(EV向け)、
燃料電池(FCV向け)



LNG発電+CCUS*

※日本CCS調査株式会社提供



エネルギー制御システム:
半導体材料



生分解性ポリマー



ケミカルリサイクル



※福島ガス発電株式会社提供

ダイレクトエアキャプチャー(DAC):特殊アミン

メタノール:水素キャリア

運転効率化:自動車向けセンシングカメラ用光学ポリマー

* CO₂回収・有効利用・貯留(Carbon dioxide Capture, Utilization & Storage)



単位: 億円	2023年度 2Q累計	2024年度 2Q累計	増減	2023年度 通期実績	2024年度 通期予想	増減
売上高	3,996	3,881	▲115	8,134	7,700	▲434
営業利益	221	337	+116	473	560	+86
経常利益	249	374	+124	460	630	+169
親会社株主に関する当期純利益	312	247	▲65	388	480	+91
為替レート(JPY/USD)	141	153	-	145	149	-

感応度(概算) 為替(USD) : 1円の円高(円安)で、営業利益6億円/年、経常利益6億円/年の減益(増益)
 原油(Dubai) : \$1/bbl.の上昇(下落)で、2.5億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず
 メタノール : メタノール市況\$1/MTの上昇(下落)で、持分法利益1億円/年の増益(減益)

営業利益の推移



2024年度 第2四半期 貸借対照表



単位:億円	2024年3月末	2024年9月末	増 減
流動資産	4,631	4,545	▲85
現預金	714	717	+3
売掛債権	1,656	1,513	▲143
棚卸資産	2,005	2,072	+67
その他	255	242	▲13
固定資産	6,048	6,329	+281
有形固定資産	3,146	3,366	+220
無形固定資産	248	244	▲3
投資その他の資産	2,653	2,718	+64
資産合計	10,680	10,875	+195

単位:億円	2024年3月末	2024年9月末	増 減
負債	3,831	3,814	▲17
買掛債務	1,090	947	▲142
有利子負債	1,730	1,901	+171
その他	1,011	965	▲46
純資産	6,848	7,061	+212
株主資本	5,876	6,039	+163
その他包括利益累計額	701	711	+10
非支配株主持分	270	309	+38
負債・純資産合計	10,680	10,875	+195

自己資本比率 約**62%** (2024年9月末時点)



MGCC

2. 三菱ガス化学の事業

機能化学品事業部門

最終ユーザーに近い製品を提供、
マーケットニーズと直結したビジネスを展開



超純過酸化水素(半導体洗浄液)



光学樹脂ポリマー



BT材料
(半導体パッケージ基板材料)



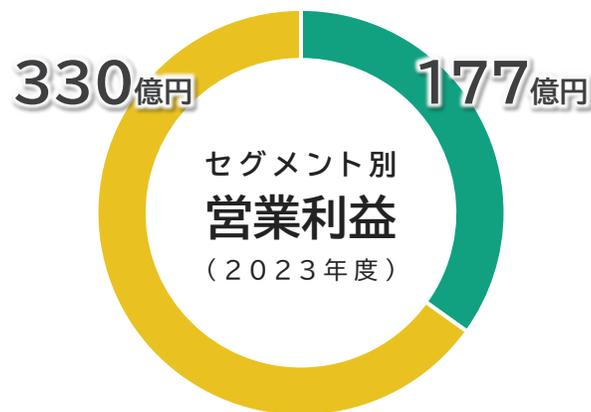
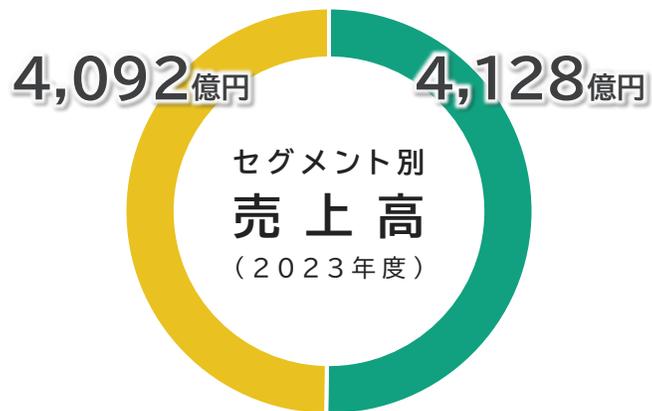
ポリアセタール(POM)



ポリカーボネート(PC)



脱酸素剤エージレス®



グリーン・エネルギー&ケミカル事業部門

天然ガスと混合キシレンを起点にした
プロダクトチェーンを展開



メタノール



MXナイロン



地熱開発



芳香族アルデヒド



メタキシレンジアミン(MXDA)

※ セグメント別売上高、営業利益の円グラフは、その他の事業及び調整額を除いて掲載しています。

■ セグメント別売上高構成比

機能化学品事業

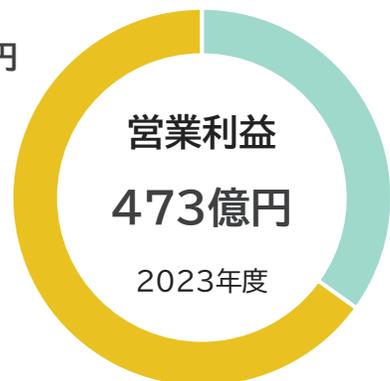
4,092億円



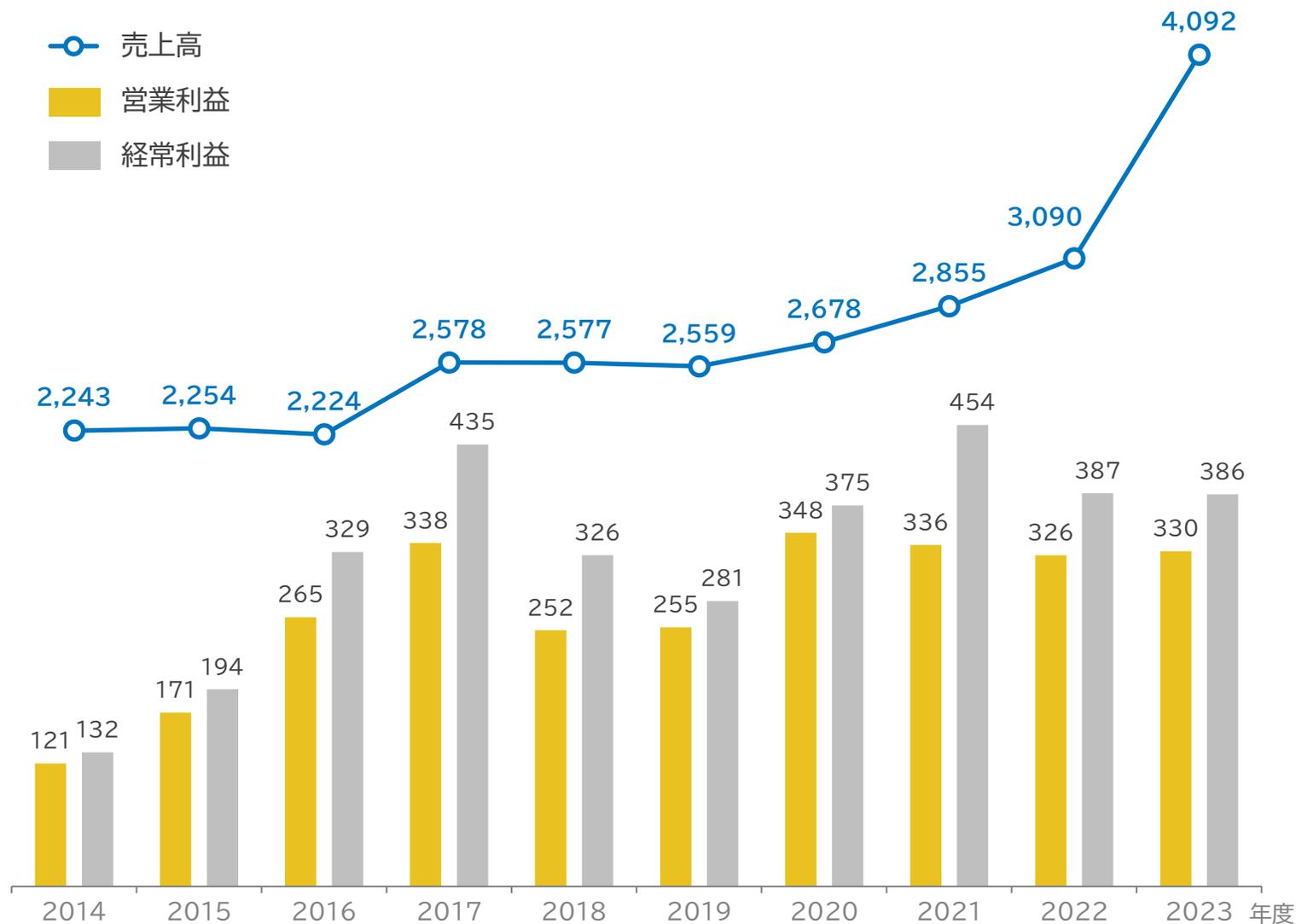
■ セグメント別営業利益構成比

機能化学品事業

330億円

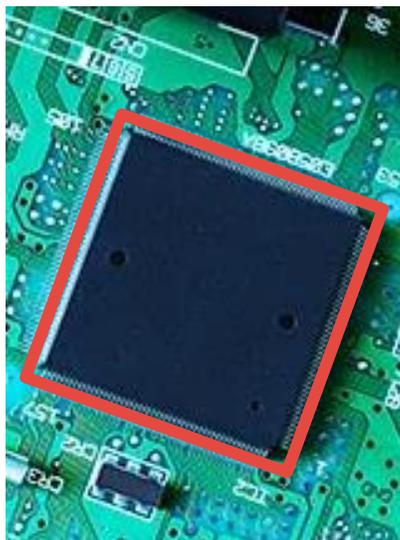
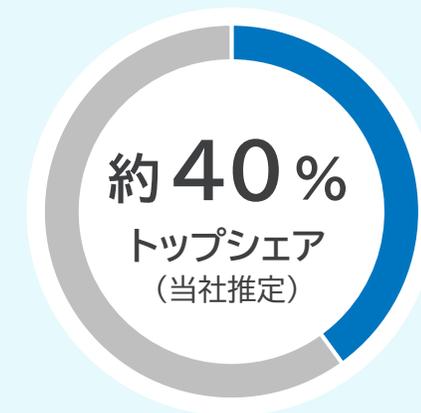


■ 機能化学品事業の業績推移(億円)



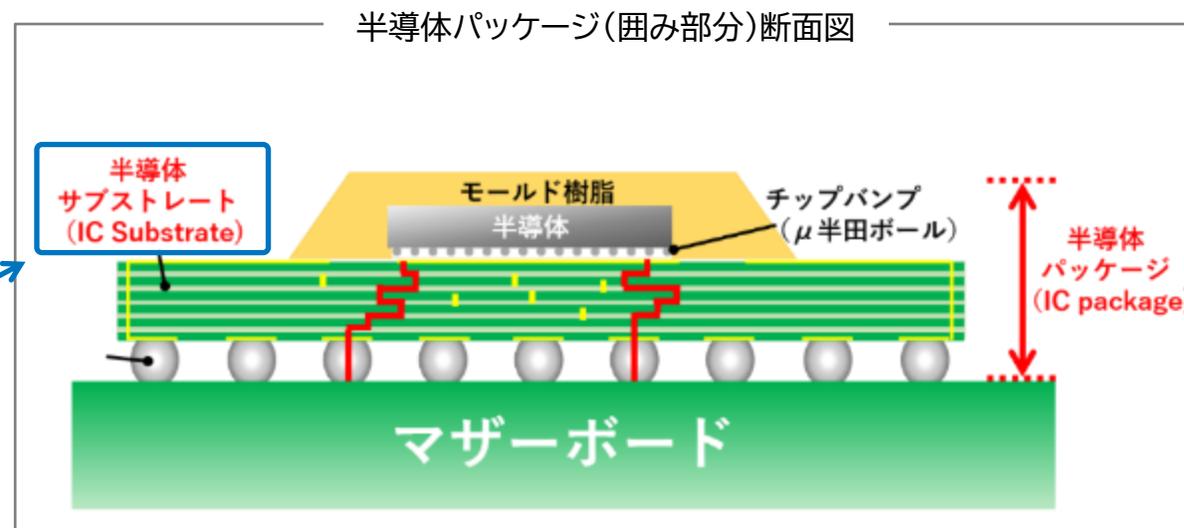
当社が開発したビスマレイミド・トリアジン(BT)樹脂というユニークな構造を有するプリント配線板用材料です。開発当時のプリント配線板材料は高価なセラミックが主流でしたが、BTはセラミックに比肩する耐熱性と電気特性を実現しました。このことが高く評価され、プリント配線板材料として世界中で使用されています。BTは今後も進化を続け、電子機器と情報技術の発展を支え続けていきます。

■ サブストレート基板材料における当社BT樹脂のシェア



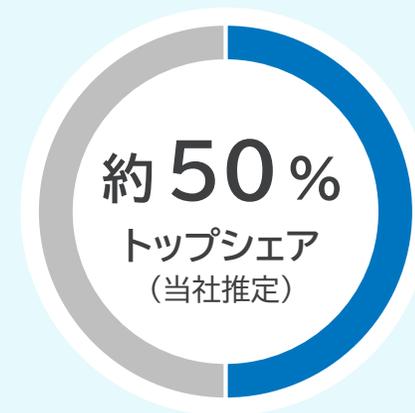
土台となるマザーボード(緑色の板)に各種の半導体チップとサブストレートが一体となったパッケージが搭載される(囲み部分)

半導体チップをパッケージする基板(サブストレート)にBT材料を使用

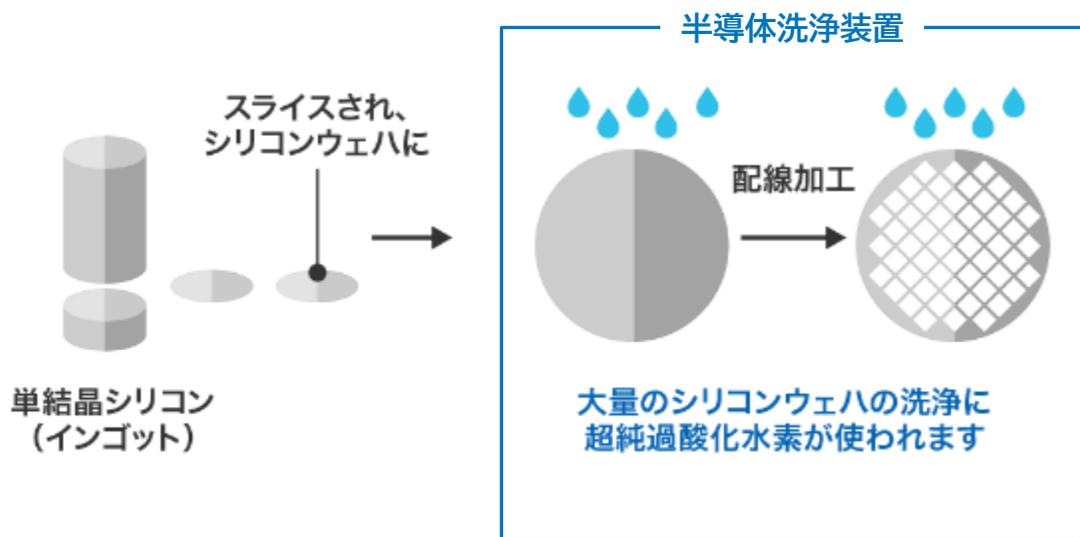


エレクトロニクスケミカルズ(EL薬品)とは半導体の洗浄工程やエッチング工程等で使用される電子工業用薬液です。当社が世界シェアNo.1を誇る「超純過酸化水素」や顧客ごとにカスタムした薬液「ハイブリッドケミカル」など、顧客密着型の生産・研究開発を展開し、高い競争力を誇っています。

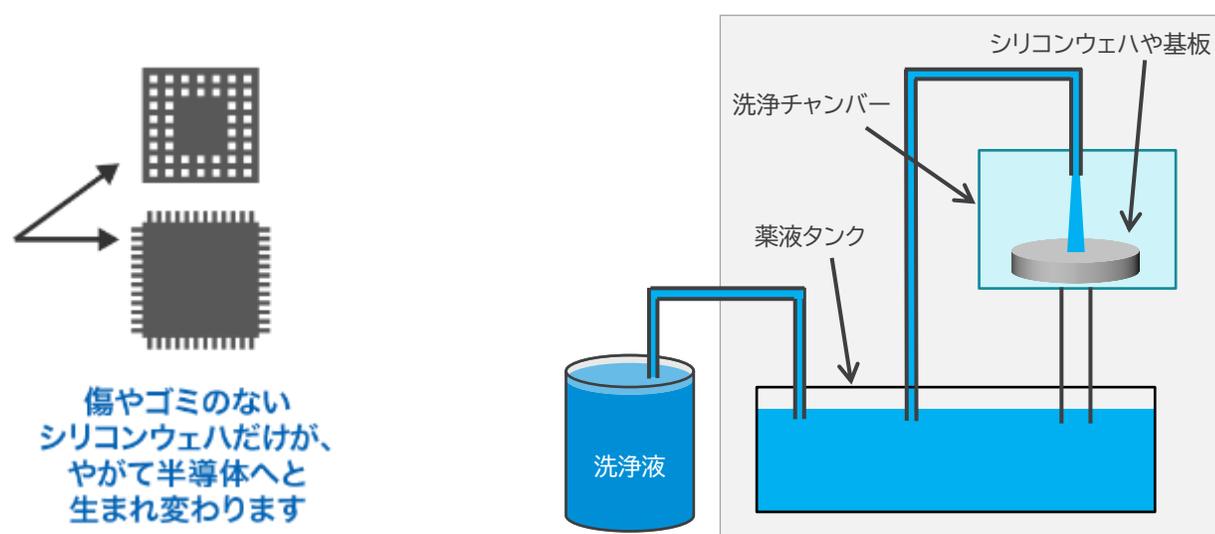
■ 超純過酸化水素の市場シェア



■ 半導体製造フロー



■ 半導体洗浄装置の構成模式図

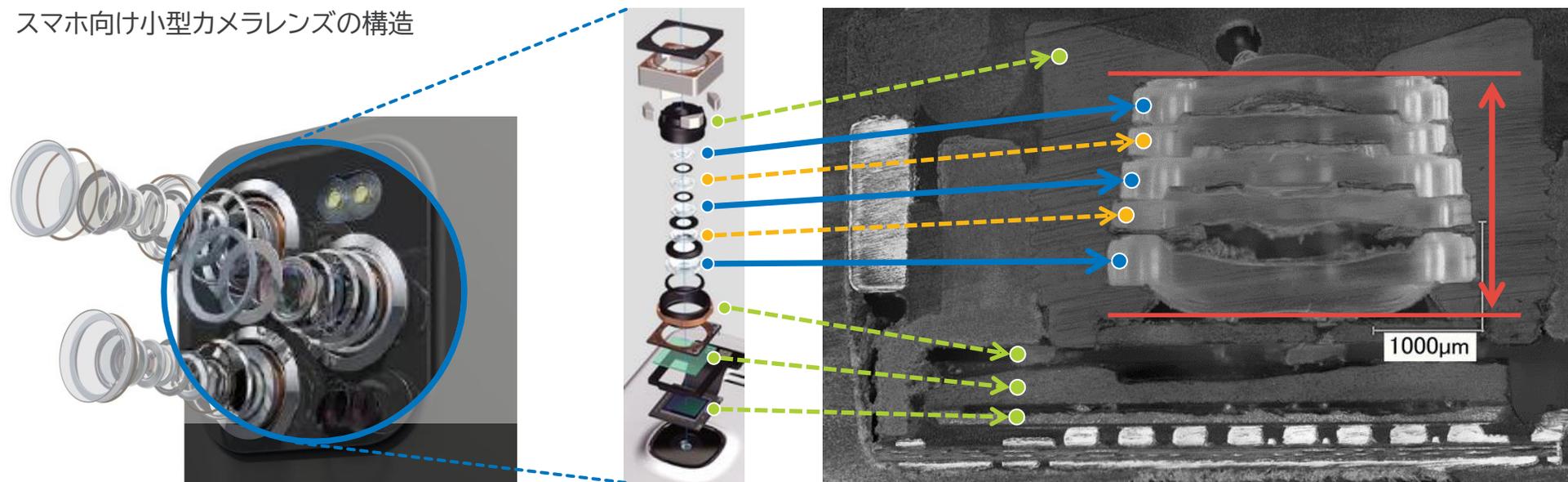


スマートフォンやVRデバイス、ドローンなどのカメラレンズ材料として広く採用されている光学樹脂ポリマー。レンズの薄型化や画像の鮮明化に貢献できる性能はもとより、きめ細やかなカスタマーサポートを通じて、顧客満足度の最大化を目指しています。現在は約90%がスマホ用途ですが、VRゴーグルや車載レーダーなど市場拡大が期待されます。



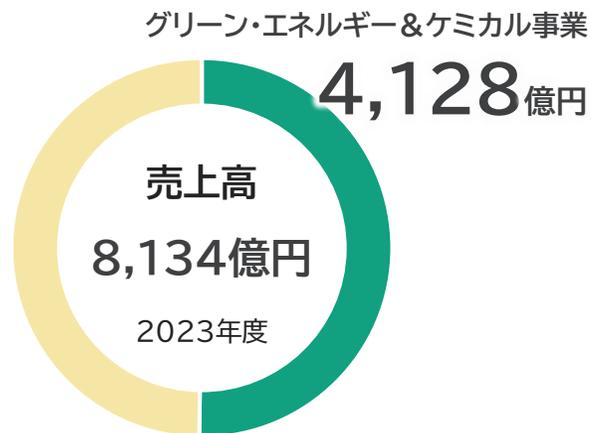
※高屈折樹脂(凹レンズ)として

■ スマホ向け小型カメラレンズの構造

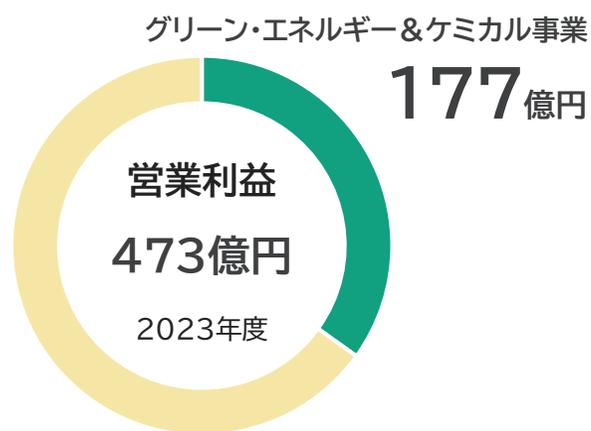


- 当社材料**
- 高屈折材(凹レンズ)
 - 低屈折材(凸レンズ)

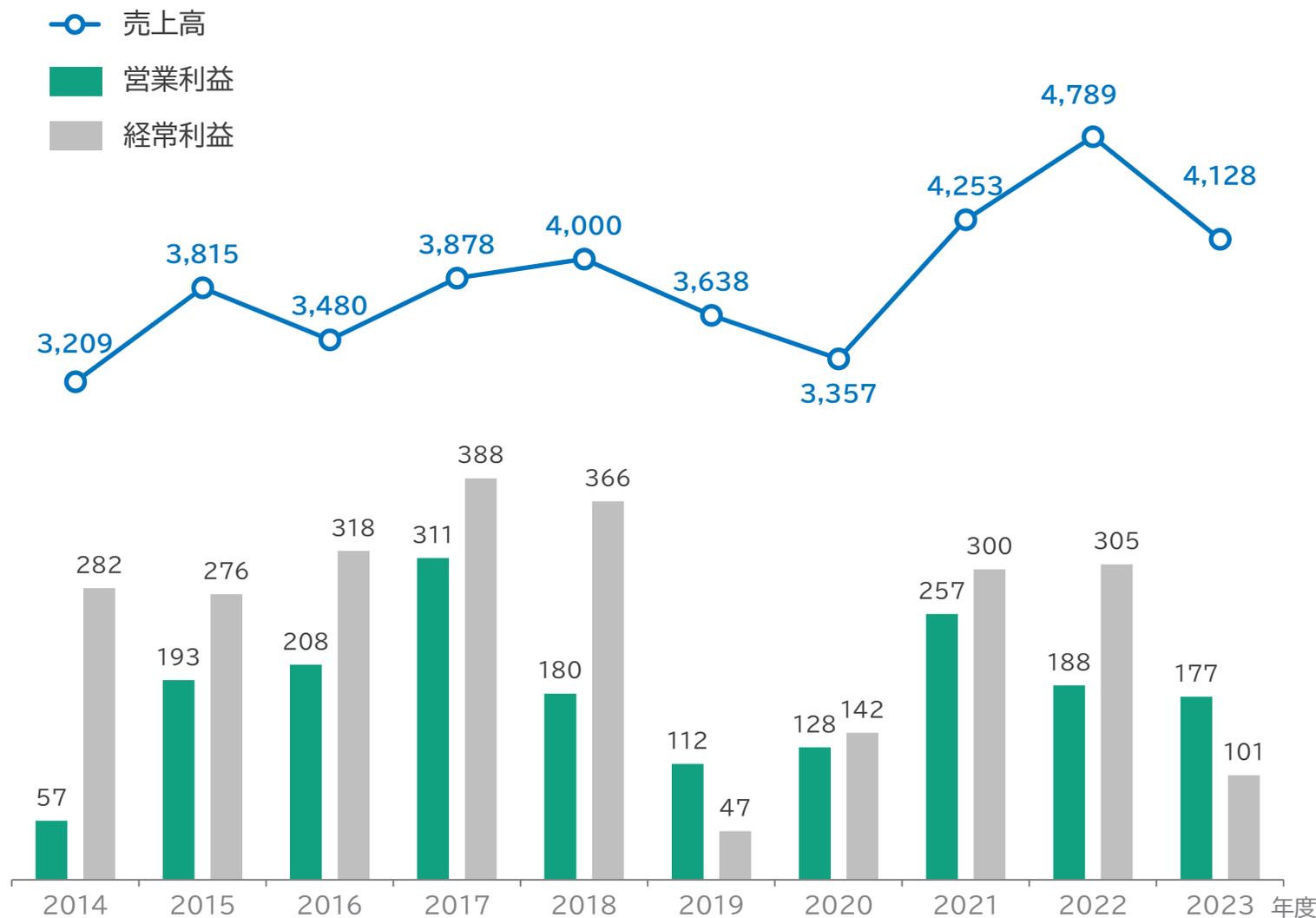
■ セグメント別売上高構成比



■ セグメント別営業利益構成比



■ グリーン・エネルギー&ケミカル事業の業績推移(億円)

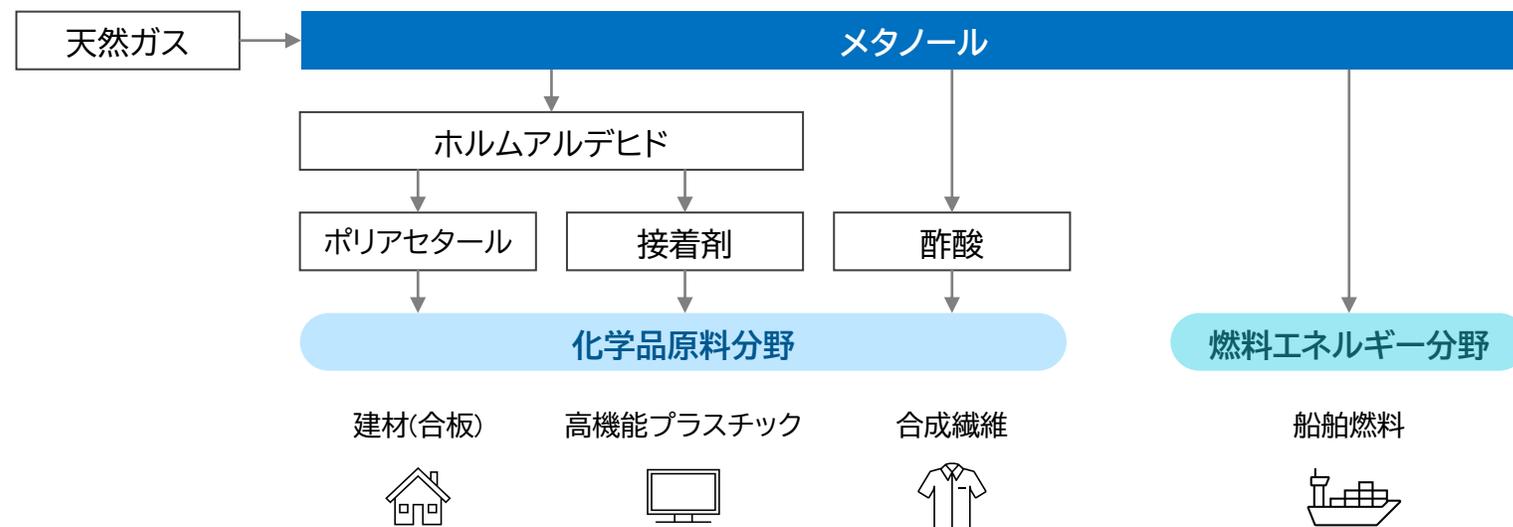


1952(昭和27)年に日本で初めて、新潟県で自社採掘した天然ガスからメタノール合成を成功したところから始まります。独自開発の触媒と自社技術を用いた海外でのメタノール生産、ロジスティクス、販売、誘導品の製造に至るまで、競争力のあるメタノールバリューチェーンを展開する世界唯一のメタノール総合メーカーです。



※2023年度実績として生産能力世界3位
(当社技術を用いた関係会社の総計)

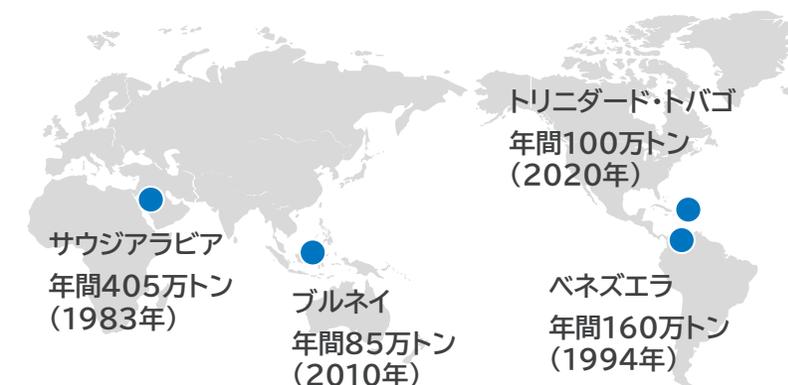
■ メタノールの用途



■ メタノールの生産拠点

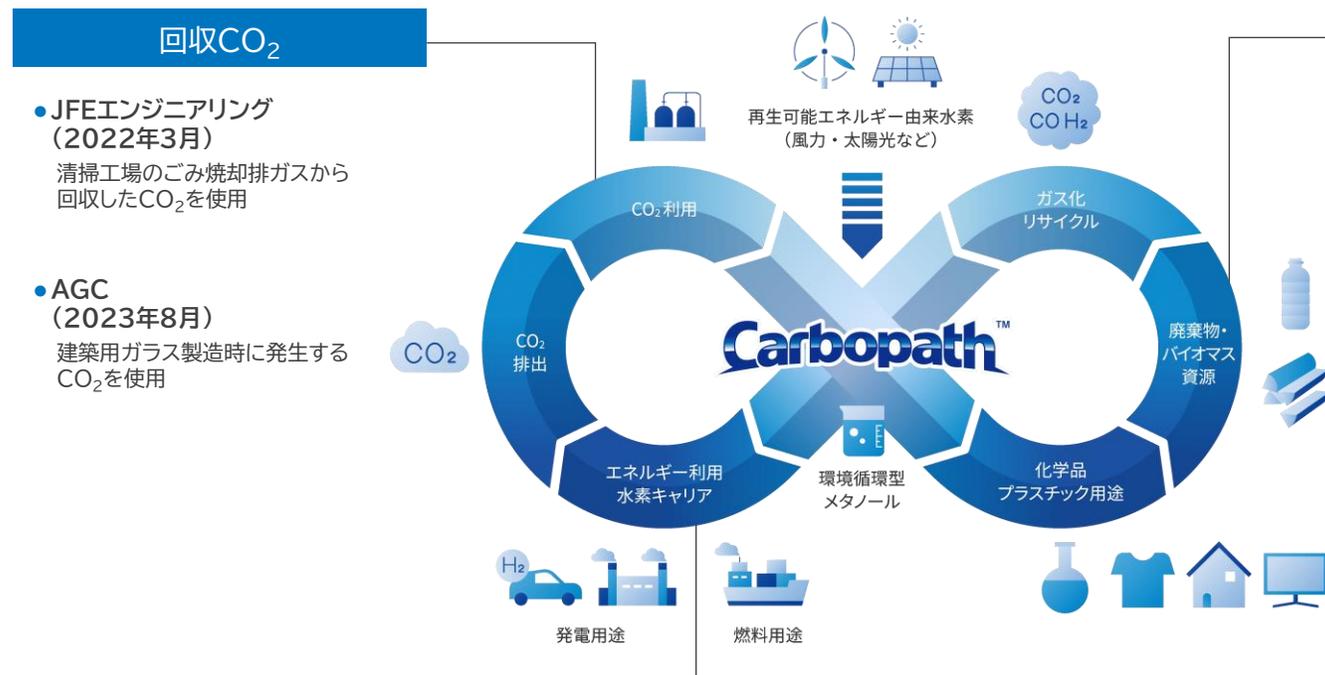
合計:年間750万トン

※()内は創業開始年



– 当社グループでは、CO₂や廃棄物等から環境循環型メタノールを介してエネルギーや素材を生み出すことを目指す環境循環型プラットフォーム「Carbopath™(カーボパス)」の構築を推進しており、産業横断的な提携を進めています。

■ 構想のイメージと取り組み (主な共同研究・事業化検討プロジェクト)



回収CO₂

- JFEエンジニアリング (2022年3月)
清掃工場のごみ焼却排ガスから回収したCO₂を使用
- AGC (2023年8月)
建築用ガラス製造時に発生するCO₂を使用

廃棄物・バイオマス資源

廃プラスチック利用

- 神鋼環境ソリューションなど5社 (2022年8月)
ケミカルリサイクル技術の構築を目指し、廃プラスチックのガス化及びメタノール化合成

バイオマス利用

- 新潟県の下水処理場から発生した消化ガスを原料としたバイオメタノールの製造開始 (2024年3月)

エネルギー利用、水素キャリア

メタノール輸送船

- 商船三井(2022年8月) 新造メタノール二元燃料船の長期定期傭船契約について基本合意
- 横浜市・マースクAS社(2023年12月) 横浜港におけるグリーンメタノール利用促進にむけての覚書を締結 日本における船舶へのメタノール燃料供給拠点の実現と普及促進

Carbopath™の特設サイトを開設いたしました



■ 2024年の主なトピックス

- 横浜港にてメタノールの船舶燃料利用の実装に向けた模擬バンカリングを実施



メタノール燃料コンテナ船「Alette Maersk」に Ship to Ship で接している様子

- 日本初、トヨフジ海運株式会社が新造する国内自動車運搬船向けに当社のメタノールを燃料として供給を計画
- 船舶燃料分野での 環境循環型メタノールの 需要の高まりに対し、出光興産株式会社と供給体制の早期構築、需要創出・市場拡大を目指し、協業を推進
- 三菱ガス化学と三菱UFJ銀行、環境循環型社会実現に向けた協業に関する覚書を締結。Carbopath™(カーボパス)を通じた循環型社会の実現を推進

※ Carbopath : 「Carbon : 炭素」+「Path(Path-finder: 開拓者)が由来。当社が環境価値を付加した環境循環型メタノール事業の先駆者となり、カーボンニュートラルや循環型社会の実現に重要な役割を果たしていくという決意を込めています。

メタキシレンジアミン(MXDA)は室温では無色液体で、骨格にベンゼン環を取り込んだ脂肪族ジアミンです。この独特の化学構造により、エポキシ、ポリアミド及びウレタン用途で使用される場合、独自の性能を発揮します。MXDAは30年以上にわたり、世界中で塗料用エポキシ硬化剤として使用されております。MXDAを使用したエポキシ硬化剤は低温硬化性を特徴とし、塗料の耐薬品性、防蝕性を向上させます。



主に橋や船舶、風力発電機のブレードなどの耐候性が求められる塗料や補修剤、他に床材としても使用される



需要が拡大している欧州市場での拡販に向け、オランダ・ロッテルダム工場を建設中(2024年度中に完工予定)





3. 中期経営計画 Grow UP 2026

- 独自性・存在感のある事業に磨きをかけ、事業を通じた社会課題の解決に貢献
- 2030年には、売上高1.2兆円、営業利益1,200億円、営業利益率10%以上、ROE 12%以上、ROIC 10%以上を目指す

サステナビリティ経営を支える経営資源

技術基盤
多様な自社開発技術

企業風土
起業家精神に基づいた進取の気性

パートナーシップ
様々なパートナーとの価値協創

安全文化
事業活動の礎

サステナビリティ経営の推進 = 社会的価値と経済的価値の両立

事業ポートフォリオの強靱化

Uniqueness & Presence

サステナビリティ経営の推進



財務目標

売上高 **1.2兆円**

営業利益 **1,200億円**

営業利益率 **10%以上**

ROE **12%以上** ROIC* **10%以上**

非財務目標

GHG排出量 **39%以上削減 (2013年度比)**

Sharebeing 製品売上高 (環境貢献製品売上高) **5,000億円以上**

*ROIC = (営業利益 - 法人税等 + 持分法損益) / 投下資本

事業を通じた社会課題の解決

ICT・モビリティ社会発展

エネルギー・気候変動問題解決

医療・食料問題解決

中計期間 :2024年度~2026年度の3年間

位置づけ :Grow UP 2023の後編・2030年ありたい姿の実現に向けた助走期間
前中計の目標に再チャレンジ、「化学に基づく、特色と存在感あるエクセレントカンパニー」へ更なる高みを目指す
キーワードは「Uniqueness & Presence」

目標 **1** 事業ポートフォリオの強靱化

施策1

「Uniqueness & Presence」へのフォーカス

施策2

イノベーションによる新しい価値の創造

施策3

重点管理事業の再構築

目標 **2** サステナビリティ経営の推進

施策1

カーボンニュートラル実現に向けた取り組みの加速

施策2

人的資本経営の充実

施策3

マテリアリティマネジメントの推進

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた企業価値向上策の推進

— 最終年度目標数値は前中計目標を上回り、再チャレンジ。資本コストを意識した経営を推進し、ROE、ROICの向上を目指す

	2023年度実績 (A)	Grow UP 2026		実績差異 (B)-(A)
		2024年度予想*1	2026年度計画 (B)	
売上高	8,134億円	7,700億円	8,500億円	+366億円
営業利益	473億円	560億円	850億円	+377億円
営業利益率	5.8%	7.3%	10%以上	+4.2pp
経常利益	460億円	630億円	950億円	+490億円
EBITDA *2	849億円	967億円	1,500億円	+651億円
ROE	6.1%	7.3%	9%以上	+2.9pp
ROIC *3	3.3%	6.8%	8%以上	+4.7pp

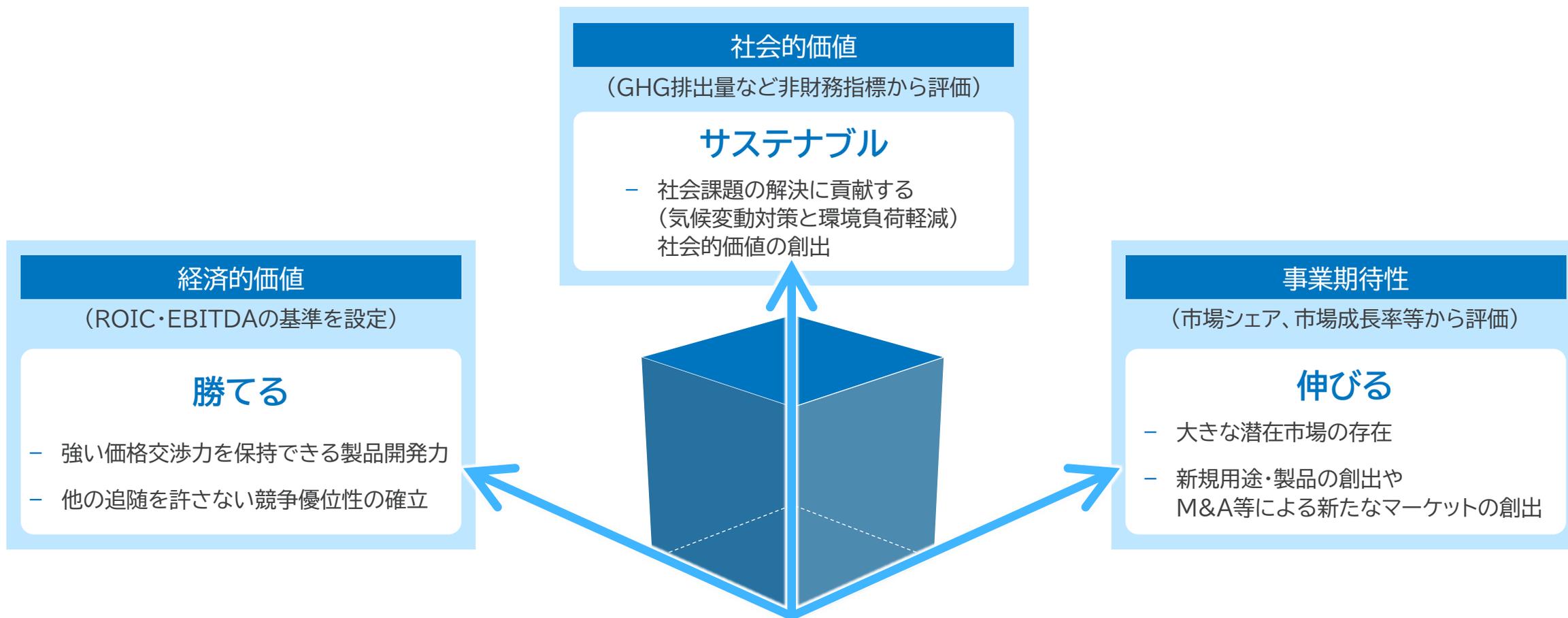
*1 2024年11月8日公表

*2 EBITDA = 経常利益 + 支払利息 + 減価償却費

*3 ROIC = (営業利益 - 法人税等 + 持分法損益) / 投下資本 (Grow UP 2026より定義を見直し)

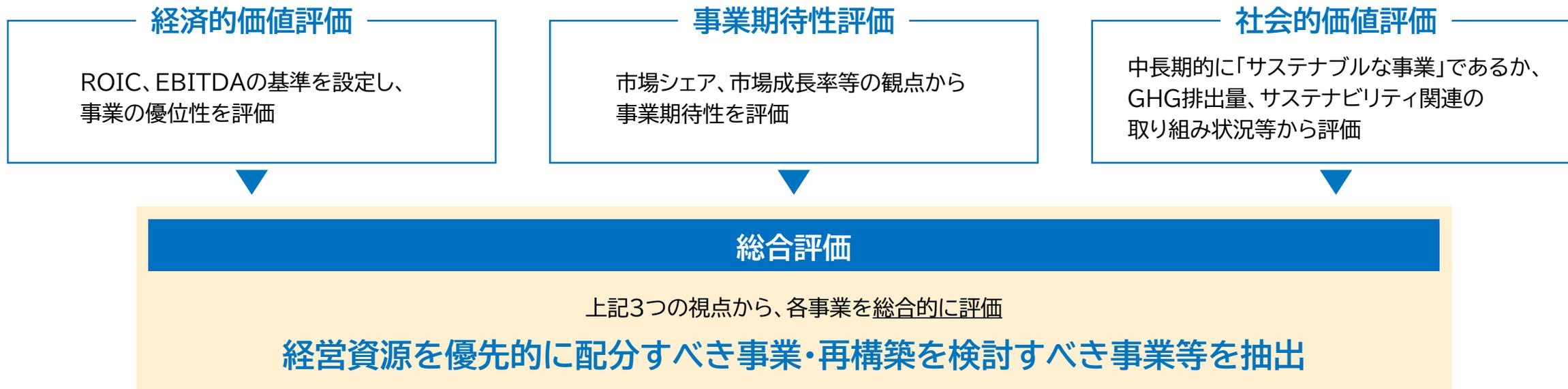
3軸で「Uniqueness & Presence」 = 差異化事業 を選別

- これまでの差異化事業を「Uniqueness & Presence事業」と改称
- 「伸びる」「勝てる」「サステナブル」の観点で優れ、社会的価値と経済的価値を両立して持続的に成長できる事業と再定義



3軸を満たす事業に注力・強化 = 事業ポートフォリオの強靱化

－ 経済的価値・事業期待性・社会的価値の3つの視点をもとに、各事業を総合的に評価

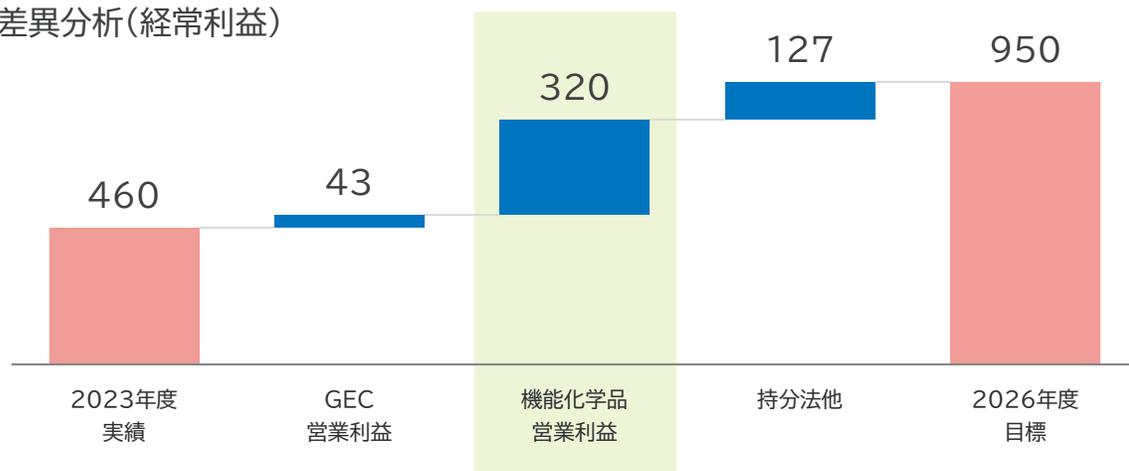


Grow UP 2026スタート時点の事業ポートフォリオ区分

Uniqueness & Presence = 差異化	基盤	新規・次世代	重点管理
<ul style="list-style-type: none"> ● 電子材料 ● 無機化学品(EL薬品等) ● 光学材料 ● メタノール ● エネルギー資源・環境事業 ● POM ● MXDA/芳香族アルデヒド ● ポリマー材料 	<ul style="list-style-type: none"> ● メチルアミン・アンモニア系 ● MMA系 ● ホルマリン・ポリオール系 ● 脱酸素剤 	<ul style="list-style-type: none"> ● ライフサイエンス系 ● 新規・次世代製品 	<ul style="list-style-type: none"> ● PC系 ● キシレン分離/誘導品

	2023年度 実績	2026年度 計画
売上高	8,134億円	8,500億円
営業利益	473億円	850億円
営業利益率	5.8%	10%以上
経常利益	460億円	950億円
EBITDA	849億円	1,500億円
ROE	6.1%	9%以上
ROIC	3.3%	8%以上

差異分析(経常利益)



Uniqueness & Presence (U&P)事業の注力戦略

ICT3事業=成長ドライバー

- 電子材料
- 無機化学品 (EL薬品等)
- 光学材料



- メタノール
- エネルギー資源/環境
- POM
- MXDA/芳香族アルデヒド
- ポリマー材料

主要投融資案件の進捗およびGrow UP 2026の投融資計画

- 前中計では計画2,400億円に対し、約2,100億円の投融資を実施
- 今中計でも高水準の投融資を継続。3年間合計では約3,000億円を計画し、U&P事業への集中投資を推進

U&P事業の主要な投資案件

Grow UP 2023			Grow UP 2026
2021年度	2022年度	2023年度	2024年度～
		半導体パッケージ用BT材料 生産能力増強(タイ)	ICT3事業
		光学樹脂ポリマープラント増設(鹿島)	ICT3事業
		EL原料過酸化水素工場新設(中国)	ICT3事業
		EL超純過酸化水素工場新設(中国)	ICT3事業
		芳香族アルデヒドプラント増設(水島)	
		超純過酸化水素 生産能力増強(韓国、天安)	ICT3事業
		水溶性天然ガス・ヨウ素の新規開発(新潟・西蒲原)	
		超純過酸化水素 生産能力増強(米国・オレゴン州)	ICT3事業
		超純アンモニア水 生産能力増強(シンガポール)	ICT3事業
		光学樹脂原料モノマープラント新設(新潟)	ICT3事業
		EL原料過酸化水素工場新設(台湾)	ICT3事業
		MXDA生産設備新設(オランダ)	
		超純過酸化水素 生産能力増強(米国・テキサス州)	ICT3事業
		超純アンモニア水 生産能力増強(米国・テキサス州)	ICT3事業
		半導体パッケージ用BT材料 生産能力増強(タイ)	ICT3事業
		レンズモノマー製造プラント新設(四日市)	ICT3事業
		水溶性天然ガス・ヨウ素の新規開発(新潟・東新潟)	
		超純過酸化水素 生産能力増強(米国・アリゾナ州)	ICT3事業
		環境循環型メタノール製造設備新設(国内)	
		超純アンモニア水 生産能力増強(新潟)	ICT3事業
		超純過酸化水素 生産能力増強(佐賀)	ICT3事業



研究開発の基本方針

- ICT、モビリティ、医・食の3つのターゲット領域に特に注力し、気候変動課題の解決に資する研究開発も推進
- MI、IPランドスケープの活用を進め、研究開発を加速

マテリアリティ 新しい価値を生み出す研究開発の推進



マテリアリティKPI

研究員のDX人材比率

67% → 75% → 80%

2023年度想定 2026年度目標 2030年度目標



気候変動課題の解決

気候変動課題の解決に資する研究開発テーマ群

- 環境循環型メタノール
- CO₂利用ポリカーボネート
- バイオマスレンズモノマー
- CCS*3
- DAC*4 他

*3 Carbon Capture and Storage
*4 Direct Air Capture、直接空気回収技術

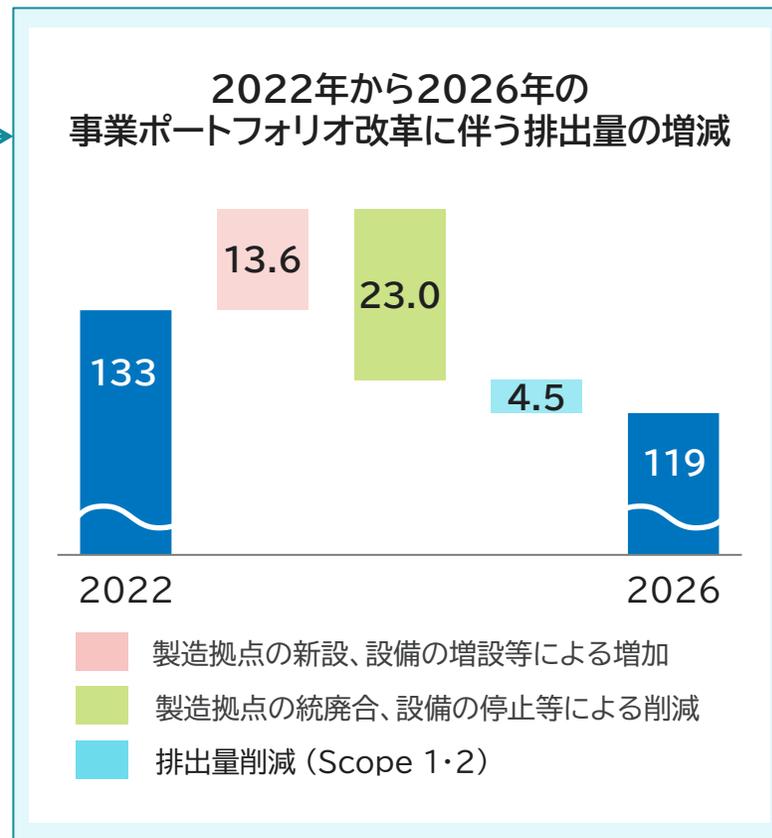
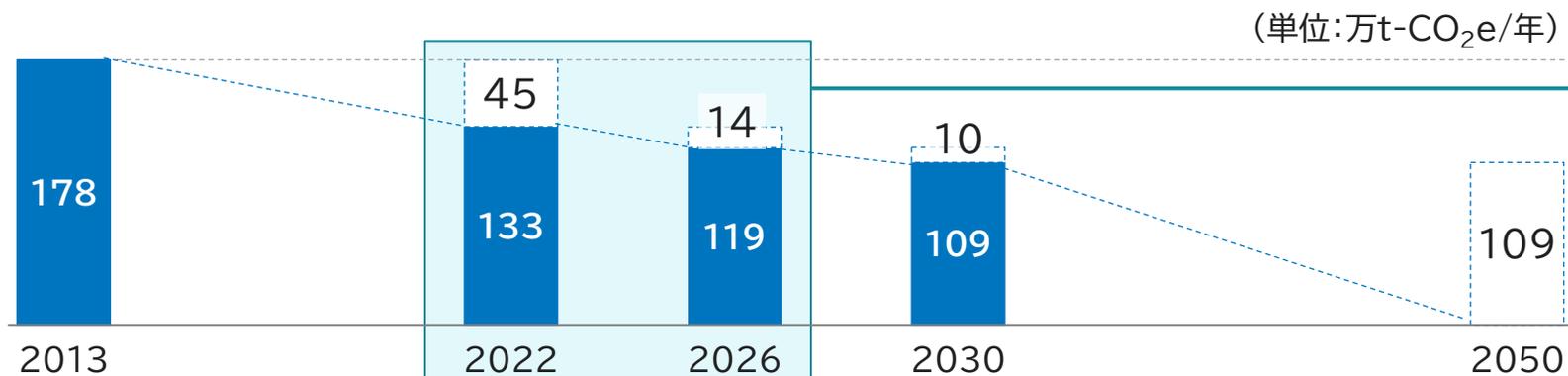
マテリアリティKPI

気候変動課題の解決に貢献する研究員比率 **25%以上**

*1 マテリアルズ・インフォマティクス:機械学習等の情報科学(インフォマティクス)を用いて、様々な材料開発の効率を高める取り組み
*2 知財情報解析を活用して知財経営に資する戦略提言を図ること

カーボンニュートラル(CN)実現に向けた取り組みの加速～CN達成ロードマップ～

GHG排出量の推移、GHG排出量の削減・増加項目



期間	2013-2022	2023-2026	2027-2030	2031-2050
製造拠点の新設、設備の増設等による増加		▲13.6		
製造拠点の統廃合、設備の停止等による削減		23.0	2.6	46.9
R&D協働による排出量削減*1				
排出量削減 (Scope 1)	45.0	1.9	2.6	10.0
燃料転換		1.1	0.2	
排出量削減 (Scope 2)	45.0	1.5	2.3	30.5
再エネ導入、移行エネルギー活用 エネルギー供給会社との協働			2.4	21.6

排出量削減に資する事業・技術



*1: 新エネルギーシステム実装、CCUS実装等 *2: Carbon Capture and Storage *3: 出典:日本CCS調査(株) *4: 提供:安比地熱(株)

- 中計において、「事業を通じた社会課題の解決への貢献」をマテリアリティに設定
- MGCグループ環境貢献製品として、「Sharebeing(シェアビーイング)」を制定し、環境貢献に資する製品の拡充を一層推進

～Sharebeing の制定及びマテリアリティKPIの設定～

(MGCグループ環境貢献製品*1)

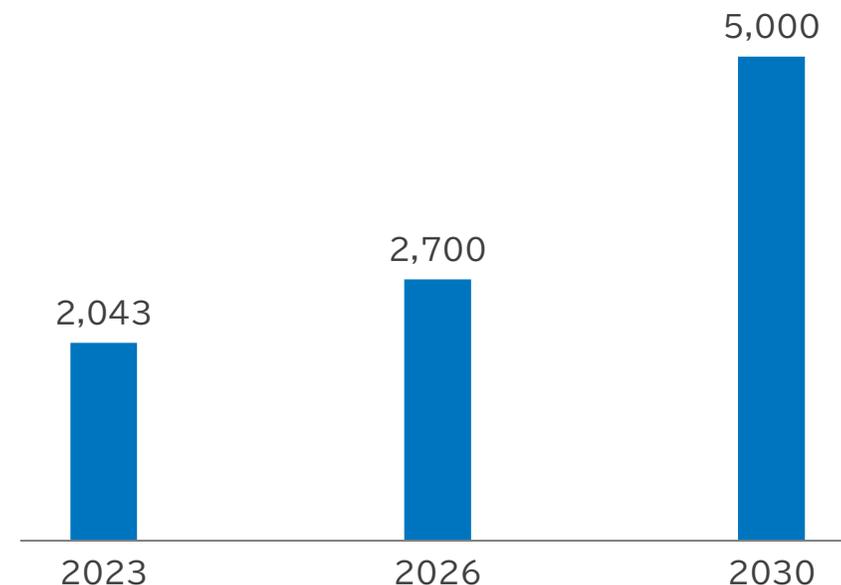


「Sharebeing」の由来は、「Share:分かち合う」+「Being:存在(実在)」です。
ミッション「社会と分かち合える価値の創造」のもとで、ユニークな独自技術により、
社会の要請に応える価値ある製品において社会の環境負荷を低減する
「Sharebeing:社会と分かち合える製品」を提供するという想いを込めています。

<https://www.mgc.co.jp/sustainability/eco-friendly/>

マテリアリティ/KPI	Sharebeing 製品売上高
事業を通じた 社会課題の解決への貢献	2,043億円 → 2,700億円 → 5,000億円
	2023年度実績 2026年度目標 2030年度目標

■ Sharebeing 製品売上高の推移 (億円)



*1 環境貢献製品:ミッション「社会と分かち合える価値の創造」のもとで、ユニークな独自技術により、社会の要請に応える価値ある製品において社会の環境負荷を低減する製品群を指す。

サステナビリティ評価

- 当社のサステナビリティ経営はさまざまなサステナビリティ評価を獲得。
- 年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が採用している6つのESG指数すべてに採用されています。

ESG投資インデックスの組み入れ ※2025年1月25日時点



社外評価



CDP気候変動 : A-
CDP水セキュリティ : B



三菱ガス化学株式会社のMSCI指数への組み入れ、及びMSCIのロゴ、商標、サービスマーク、指数名称の使用は、MSCI またはその関係会社による三菱ガス化学株式会社の後援、宣伝、プロモーションではありません。MSCI指数はMSCIの独 占的財産です。MSCI及びMSCI指数の名称とロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。



4. 株主還元

MGC

中期経営計画期間の株主還元方針

- 今中計より株主還元を一層強化。累進配当*を採用し、総還元性向を引き上げ

*中計3年間の期間を対象。原則、減配を実施せず、配当維持または増配を行う。

- ① **累進配当方針(原則、減配を実施せず、増配または維持)を採用**
2009年度以降、減配をせず安定的に配当を引き上げてきたが、新中計でより明確化
- ② **総還元性向を前中計の「40%目安」から「50%目安」に引き上げ**
機動的に自己株式を取得し、資本効率の向上を図る

これまでの株主還元方針(~2023年度)

- 安定配当の継続
- 総還元性向40%を目安
- 機動的な自己株式取得を実施



新中計期間の株主還元方針(2024年度~)

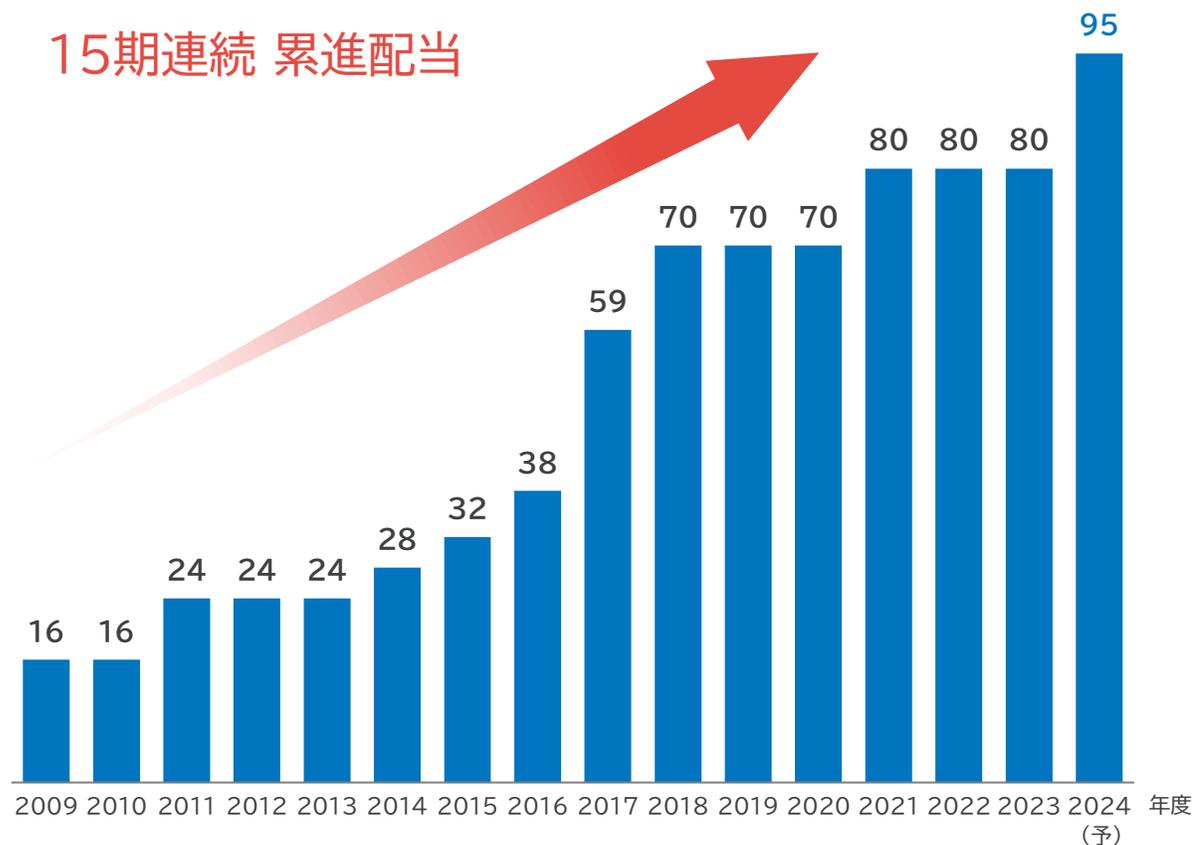
- **「累進配当方針」を採用**
(原則、減配を実施せず、増配または維持)
- **「総還元性向」を50%目安に引き上げ**
(機動的な自己株式取得を強化、追加還元策として柔軟に実施)

— 資本コストの低減や資本効率の向上、BSコントロール強化の観点も考慮し、株主還元を一層強化(2024年11月8日公表)

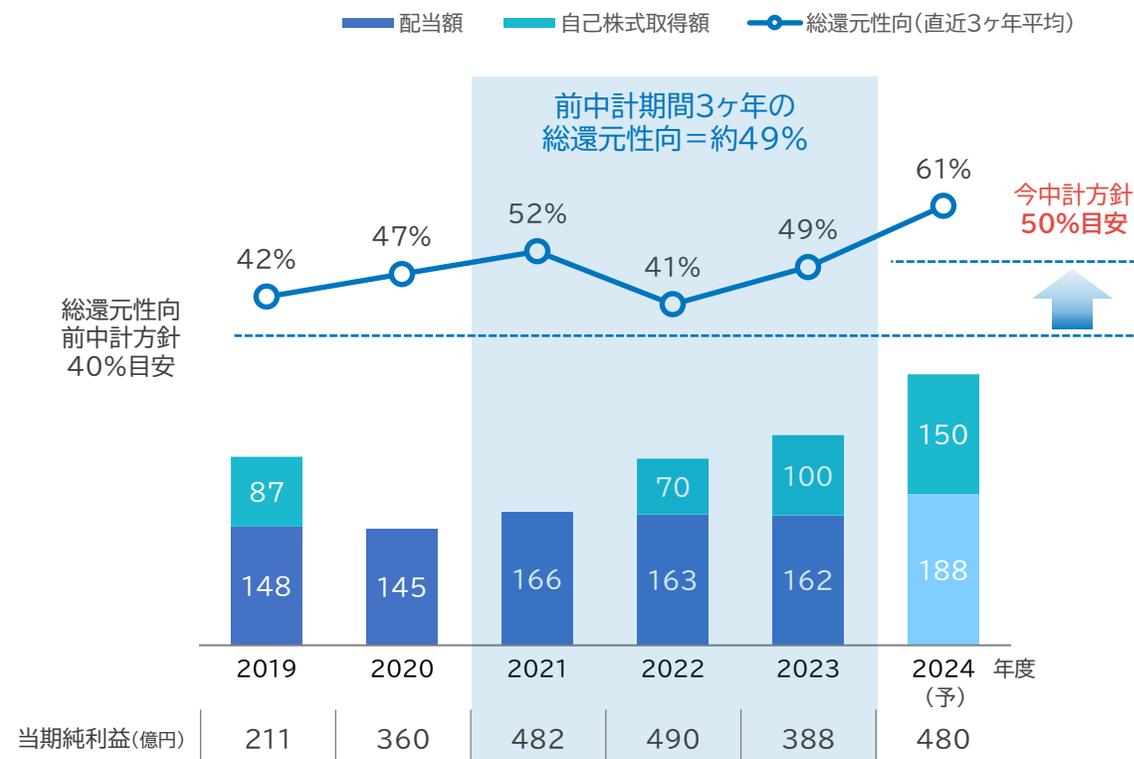
- **2024年度の年間配当を95円に増配** (中間配当45円、期末配当50円)
- **最大150億円(560万株)の自己株式取得を決定** (今回取得した自己株式の全株式数の消却も併せて決定)

■ 一株当たり配当金の推移(円)

15期連続 累進配当



■ 株主還元の推移(億円・%)





参考資料

主なIRコミュニケーションツール



IRサイトや決算説明会資料、統合報告書など、幅広いIRコミュニケーションツールを展開

IRサイト

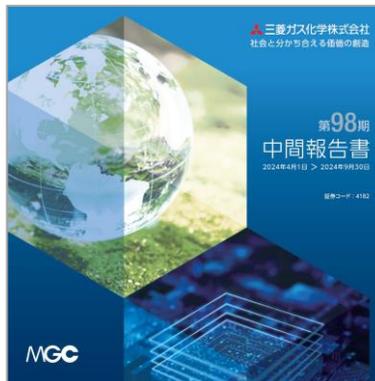
IRサイトランキングでは高評価を獲得



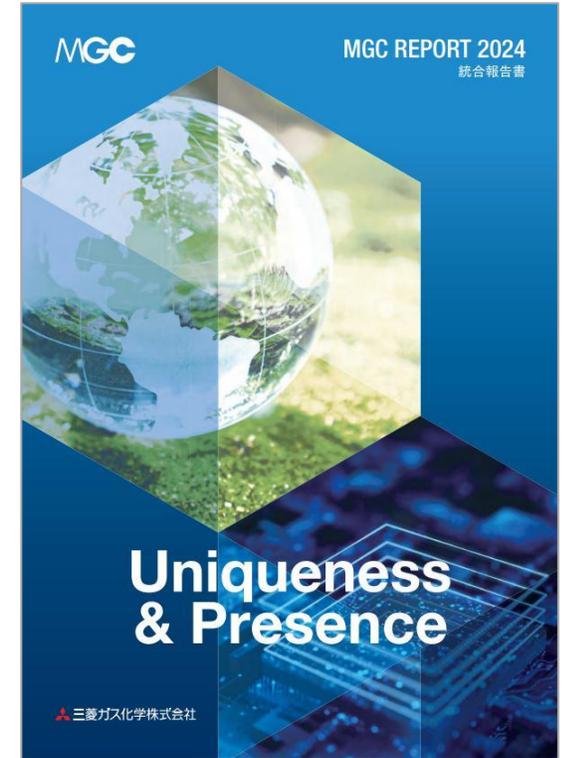
決算説明会資料(年4回)



株主通信誌(年2回)



統合報告書(年1回)



機能化学品事業部門

機能化学品

- 無機化学品
 - エレクトロニクスケミカルズ
(超純過酸化水素、ハイブリッドケミカル)
 - 過酸化水素等
- エンジニアリングプラスチック
 - ポリカーボネート/シートフィルム、ポリアセタール等
- 光学材料
 - 光学樹脂ポリマー、超高屈折レンズモノマー等

特殊機能材

- 電子材料
 - 半導体パッケージ用BT材料等
- 脱酸素剤
 - エージレス®等

グリーン・エネルギー&ケミカル事業部門

天然ガス系化学品

- メタノール
- メタノール/アンモニア系化学品
 - アンモニア・アミン類
 - MMA系製品
 - ホルマリン・ポリオール系製品、等
- エネルギー資源・環境事業

芳香族化学品

- MXDA、芳香族アルデヒド、ポリマー材料
 - MXナイロン等
- キシレン分離/誘導品
 - メタキシレン
 - 高純度イソフタル酸(PIA)等

セグメント別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移



単位:億円	2023年度実績			2024年度(前回予想)*1			2024年度(実績/今回予想)*2		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期(予)	通期(予)
売上高	3,996	4,137	8,134	3,900	4,000	7,900	3,881	3,818	7,700
GEC	2,094	2,034	4,128	1,679	1,617	3,297	1,639	1,641	3,281
機能化学品	1,941	2,150	4,092	2,163	2,305	4,469	2,229	2,178	4,407
全社/調整	▲39	▲47	▲86	56	77	133	12	▲1	11
営業利益	221	252	473	280	260	540	337	222	560
GEC	94	82	177	75	49	124	101	47	148
機能化学品	142	188	330	222	230	453	252	197	449
全社/調整	▲16	▲19	▲35	▲17	▲20	▲37	▲15	▲22	▲38
経常利益	249	210	460	330	290	620	374	255	630
GEC	74	26	101	114	87	201	142	84	227
機能化学品	178	207	386	233	223	456	258	194	453
全社/調整	▲4	▲23	▲27	▲18	▲20	▲38	▲27	▲22	▲50

*1 2024年8月7日公表
*2 2024年11月8日公表

セグメント別 2023年度及び2024年度 四半期別推移



単位:億円	2023年度				2024年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	1,870	2,126	2,220	1,916	1,881	2,000
GEC	1,019	1,074	1,155	878	783	855
機能化学品	872	1,069	1,087	1,062	1,092	1,136
全社/調整	▲21	▲17	▲22	▲24	4	8
営業利益	62	158	165	86	157	180
GEC	32	62	69	12	41	60
機能化学品	35	106	107	81	126	126
全社/調整	▲5	▲10	▲11	▲7	▲9	▲6
経常利益	70	179	184	26	179	194
GEC	20	54	90	▲63	45	97
機能化学品	47	131	114	93	139	119
全社/調整	2	▲6	▲20	▲3	▲5	▲22

単位:億円	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度(予)
設備投資額 [上期]	305 [149]	350 [137]	309 [139]	392 [186]	423 [224]	402 [158]	547 [220]	646 [312]	817 [380]	940 [397]
減価償却費 [上期]	267 [131]	256 [122]	270 [131]	274 [135]	295 [144]	306 [151]	319 [158]	335 [161]	363 [183]	340 [168]
研究開発費 [上期]	189 [92]	192 [96]	189 [95]	186 [91]	196 [94]	199 [98]	210 [101]	235 [111]	256 [126]	265 [127]
年度末人員(人)	8,176	8,034	8,009	8,276	8,954	8,998	9,888	10,050	7,918	8,237
EBITDA*1	746	894	1,088	976	616	817	1,070	1,050	849	967
U&P事業 営業利益	171	213	314	250	297	374	423	418	406	564
ROA(総資産経常利益率:%)	5.9	8.4	10.6	8.7	3.9	6.2	8.4	7.1	4.4	5.8
ROE(自己資本当期利益率:%)	9.0	12.0	13.6	11.3	4.3	7.1	8.8	8.3	6.1	7.3
ROIC(投下資本利益率:%)*2	7.0	9.6	12.1	9.5	3.6	6.2	7.4	6.4	3.3	6.8
売上高営業利益率(%)	5.7	7.9	9.9	6.4	5.6	7.5	7.8	6.3	5.8	7.3
一株当たり当期純利益(円/株)	153.85	221.83	281.39	257.46	100.50	173.41	232.15	239.08	190.97	243.10
一株当たり配当金(円/株) [うち中間配当]	32.00 [16.00]	38.00 [16.00]	59.00 [24.00]	70.00 [35.00]	70.00 [35.00]	70.00 [35.00]	80.00*3 [45.00*3]	80.00 [40.00]	80.00 [40.00]	95.00 [45.00]
総還元性向(%)	42.5	30.1	32.5	27.2	111.4	40.4	34.5	47.9	67.5	70.3

*1 EBITDA=経常利益+減価償却費+支払利息 *2 ROIC=(営業利益-法人税等+持分法損益)/投下資本 *3 記念配当10円を含む

- 当社は、CSR・IR部 IRグループを主担当部署として、代表取締役社長、CSR・IR部担当 取締役常務執行役員、機能化学品事業部門担当 取締役常務執行役員、グリーン・エネルギー&ケミカル事業部門事業部担当 取締役常務執行役員等により、以下の通り株主・機関投資家を中心とした対話を実施しております。

2023年度のIR活動

	実績	内容
決算説明会	4回	四半期毎にアナリスト・機関投資家向け決算説明会を開催
個別取材	約190件	株主を含む機関投資家・アナリスト等との定期的な面談を実施
海外機関投資家向けIR	約40件	証券会社主催のカンファレンスへの参加や海外ロードショーにより、海外機関投資家と対面またはwebでの個別面談を実施
ESG面談及びスチュワードシップコード面談	11回	投資家とのESGエンゲージメントやSR対話を実施
機関投資家向けIRイベント	4回	事業説明会、カーボンニュートラル戦略説明会、工場見学会、等を開催
スモールミーティング	3回	アナリスト・国内外機関投資家と経営層との意見交換会を開催
社外取締役面談	1件	株主と社外取締役との個別面談を実施

2024年度のIR活動の様子



中期経営計画説明会



展示会



アナリスト・機関投資家向け工場見学会

見通しに関する注意事項

当資料に記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

 三菱ガス化学株式会社

CSR・IR部 IRグループ

TEL : 03-3283-5041 URL : <https://www.mgc.co.jp/ir/>



IRメール配信サービス

適時開示やIRに関する最新情報について、
メールでお知らせいたします。ぜひご登録ください。